

あとかき

妊娠は母体に非常に大きな変化をもたらす。

妊娠を順調に経過し、無事出産に至ることは母親は云うに及ばず、家族にとってもこの上もない喜びであり、その意味で臨床各科のなかで、産科医ほど周囲から感謝される臨床医はなく、医者冥利に尽きるというものであるのに、近年産科医不足が大きくクローズアップされてきているのは何故であろうか？

産婦人科医を対象として「産科診療がどの程度のストレスになっているか？」の調査が以前に行われた所、若手産婦人科医の26%が産科はやめたいとの結果が出た。その理由は「診療業務の負担が大きい」ことや「医療訴訟が多い」であった。事実、医療訴訟の件数は産婦人科が最も多い。このような傾向にさらに拍車をかけたのが、福島県立大野病院事件であった。産科医になって母子ともに無事に出産を迎えられるように全力を尽くさない医師はいない。妊娠は個々のケースでその状況は様々であるが、一般の人は「出産は無事に迎えるのが当然」と考えがちである。稀ながらも起こり得るトラブルにどのように対処するか、産科医の腕が問われるのだが、仮に不幸な転帰を辿ったとしても、どうして産科医に刑事責任を負わせ、逮捕・起訴という形になるのであろうか？産科医として、母子とも無事に出産を終えるよう全力を尽くさない医師はいない。大野病院事件では、癒着胎盤という極めて稀な状況において、癒着を剥して胎盤を除去しようとした医師に対して、子宮摘出を選択すべきであり、母親が不幸にして死の転帰をとったことに対して、業務上過失致死罪、医師法違反の罪を問うたのである。この裁判は、日本産婦人科学会始め医学界がこぞって起ち上がり、声明文をまとめたこともあり、医師の裁量に属する個々の症例に対する医療行為として、結果無罪となった。

大野病院事件を教訓に、現在、医療関連死の死因解明と医療安全の確保の為に第三者的中立機関の創設の議論が、医学界、法曹界、行政、そして一般市民も交えて続けられ、現在、意見のまとめの段階に入ってきていることは喜ばしいのではあるが、最終の詰めの段階に来て、システム全体のデザイン、医師の免責の位置づけなどの問題をめぐり、意見がまとまらず、足踏みを続けているのは残念である。確かに明らかなミスについては医師も業務上過失に問われるのだが、医療関連死における重大な過誤の定義が明確でないこともあって、法制化の障害になっており、早期の解決が望まれている。医師法21条の記載の問題点を今ここで正しておかないと、これまでどおり、医療関連死は、24時間以内にすべて警察に届けなければならないという制度を続けていかななくてはならず、医学界が挙げて、医療の萎縮を防ぎ、かつ安全な医療を確立する為に国民にとって理解できる死因究明制度を創設しようと声をあげた意味がなくなってしまうのを危惧している。(池田 康夫)

バックナンバー

「今月の主題」一覧

第51巻(2007年)

- 4号 悪性リンパ腫
- 5 脂質
- 6 骨粗鬆症と臨床検査
- 7 不整脈検査
- 8 ヒト乳頭腫ウイルス(HPV)と子宮頸癌
- 9 フローサイトメトリー
- 10 白血球
- 11 メタボリックシンドローム健診での注意点
- 12 (増刊号)遺伝子検査—診断とリスクファクター

第52巻(2008年)

- 1号 インフルエンザ診療のブレイクスルー
- 2 輸血の安全管理
- 3 アルツハイマー病の最近の進歩
- 4 歯科からみえる全身疾患
- 5 自己免疫疾患の診断
- 6 エビジェネティクスと臨床検査
- 7 腎移植
- 8 自然免疫と生体防御レクチン
- 9 アスベストと中皮腫
- 10 結核
- 11 (増刊号)ホルモンの病態異常と臨床検査
- 12 平衡機能検査
- 13 凝固制御

第53巻(2009年)

- 1号 ウイルス感染症—最新の動向
- 2 生体内微量元素
- 3 臨床検査コンサルテーション/診療支援

〔バックナンバーのお取り扱い〕

第51巻第4号以降は医学書院販売部がお取り扱いします。それ以前のものは(株)東亜ブック(東京都豊島区池袋4-13-4、電話03-3985-4701、FAX03-3985-4703、<http://www.toabook.com/>、E-MAIL: st@toabook.com)がお取り扱いします。

臨床検査 (第53巻第4号)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

2009年4月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 1,890円(本体1,800円+税5%)

2009年年度予約購読料 27,180円(送料弊社負担・増刊号を含む13冊)

Medical Finder パーソナルオプション付 35,400円

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5712

ファクシミリ (03) 3815-7802/3815-7982

E-mail: rinshokensa@igaku-shoin.co.jp

担当 後藤・柴崎・高口・能藤

印刷所 三美印刷(株) ☎ (03) 3803-3131

広告申込所 (株)東広社 ☎ (03) 3409-8803

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan.
 ・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
 ・ JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物
 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670、FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。
 ・ 医学書院ホームページ(インターネット)は<http://www.igaku-shoin.co.jp>です。
 「臨床検査」URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinshokensa/>